

## 伸銅業界の「低炭素社会実行計画」(策定中)

		計画の内容
1. 国内の企業活動における2020年の削減目標	目標水準	(検討状況) 過去10年間で、伸銅品を取巻く状況は大きく変化しており、業界の努力にもかかわらず、単純計算ではエネルギー原単位が10年前より悪化しています。このことから、2020年までの伸銅品に対する要求品質は全く読めないことを実感しており、伸銅協会内に設置しているエネルギー・環境対策委員会の中で検討を重ねてきましたが、目標水準の設定は困難を極めています。
	目標設定の根拠	
2. 低炭素製品・サービス等による他部門での削減		
3. 国際貢献の推進(海外での削減の貢献)		
4. 革新的技術の開発・導入		
5. その他の取組・特記事項		伸銅協会内に設置しているエネルギー・環境対策委員会(10社)の中で、鋭意継続して検討中ですが、伸銅品を取巻く状況が大きく変化しており、2020年における目標水準の設定が困難を極めています。今後、板条地球温暖化対策委員会(板条製品だけを対象にした実行計画の検討委員会)及びエネルギー・環境対策委員会を開催して、「伸銅業界の低炭素社会実行計画」を継続審議し、今年度末までに策定する予定です。

# 伸銅業界の「低炭素社会実行計画」(策定中)

平成 25 年 12 月 3 日  
一般社団法人 日本伸銅協会

## 1. 業界団体の削減目標、今後の見通し等

### (1) 業界の概要及びカバー率

#### ● 業界の概要

伸銅品とは、銅や銅合金を板、条、管、棒、線などに加工した製品の総称で、鉄、アルミニウムなどとともに広い分野で使用されている。伸銅品は他の金属に比較して、加工性、導電性、熱伝導性、耐食性、ばね性などに優れており、情報通信、精密機器などの先端分野で活躍している。

伸銅品の全国生産量は、平成 19 年度までは 100 万トン程度を維持していたが、その後リーマンショックなどの影響で減少し、平成 24 年度で約 77 万トンである。日本伸銅協会の会員会社は、平成 24 年 12 月現在で、正会員 49 社、賛助会員 12 社である。

#### ● 業界全体に占めるカバー率

業界全体の規模		業界団体の規模		低炭社会実行計画参加規模	
企業数	約 60 社	団体加盟企業数	49 社	計画参加企業数	社
市場規模	売上高 約 7600 億円	団体企業売上規模	売上高 約 7500 億円	参加企業売上規模	売上高 億円

- \* カバー率については、参加企業数●社/△社や、生産高・量のカバー率■%などを記載。
- \* 合わせて参加規模・カバー率を向上させるための方策も記載。

#### ● 自主行動計画の対象範囲との差異

## (2) 削減目標と今後の見通し

	基準年度 ( 年度)	現状 (2012年度)	2013年度	2014年度	2015年度	2020年度	2030年度
対策評価指標 (目標指標) (〇〇)	検討中	検討中	検討中	検討中	検討中	検討中	
CO2排出削減量 (万 t-CO2)							
省エネ効果 (例：導入1単 位当たり)							
年間省エネ効果 (単位)							
対策効果の算出時に見込んだ前提							

\* CO2 排出量及び省エネ効果は可能な範囲で記入。

\* CO2 算定の際の電力排出係数は、〇〇kg-CO2/kWh を用いた。

## (3) 対策評価指標（目標指標）について

- 対策評価指標（目標指標）を選択した理由

(4) 目標値について

- 目標値が自ら行いうる最大限の水準であることの根拠（実施する対策内容とその効果等の根拠）

BATリスト	削減見込み量	算定根拠 (左記の設備機器がBATである根拠を含む)

(5) 2020年度の想定排出量、エネルギー使用量等について

- 排出量、エネルギー使用量関係

基準年度実績 (1995年度)	2012年度実績	2020年度 (2012年時点における想定・見通し)
(万t-CO2)	54.6 (万t-CO2) ただし、11社15事業所の合計	(万t-CO2)
37.0万 (原油換算kl)	27.5万 (原油換算kl) ただし、11社15事業所の合計	(原油換算kl)
(kWh)	883,683 (MWh) ただし、11社15事業所の合計	(kWh)

\* CO2 排出量は可能な範囲で記入。ただし、現状（2012年度）のCO2排出量については、必ず記載すること。

\* CO2 算定の際の電力排出係数は、〇〇kg-CO2/kWh を用いた。

(6) 活動量関係について

● 活動量指標

[Empty dashed box for activity indicators]

● 上記指標を選択した理由

[Empty dashed box for reasons for selecting indicators]

● 活動量、CO2 原単位

	基準年度実績 (1995年度)	2012年度実績	2020年度 (2012年時点における 想定・見通し)
活動量 (単位)	83.7 (万トン)	61.9 (万トン)	
エネルギー原単位 (単位)	0.442 (kl/トン)	0.444 (kl/トン)	

\* 活動量は、「〇〇戦略」における前提に基づいて算定。

(7) 目標達成の確実性を担保する手段

[Empty dashed box for measures to ensure target achievement]

## 2. 低炭素製品・サービス等による他部門での削減

### (1) 他部門での排出削減に資する製品・サービス等

低炭素製品・サービス等	当該製品等の特徴、従来品等との差異など

### (2) 低炭素製品等による 2020 年度時点での CO2 排出削減見込み

低炭素製品・サービス等	削減見込み量	算定根拠、データの出所など

### 3. 国際貢献の推進（海外での削減の貢献）

#### （1）海外での排出削減に資する技術等

技術等	当該技術等の特徴、従来技術等との差異など

#### （2）技術移転等による 2020 年度時点での CO2 排出削減見込み

技術等	削減見込み量	算定根拠、データの出所など

#### 4. 革新的技術等の開発・導入

##### (1) CO2 排出量の大幅削減につながる革新的技術の概要

革新的技術	投資予定額	技術の概要

##### (2) 開発・導入・普及に向けた今後のスケジュール

##### (3) 技術普及・導入した場合の年間 CO2 排出削減効果

革新的技術	削減見込み量	算定根拠

## 5. その他の取組・特記事項

伸銅協会内に設置しているエネルギー・環境対策委員会（10社）の中で、鋭意継続して検討中ですが、伸銅品を取巻く状況が大きく変化しており、2020年における目標水準の設定が困難を極めております。今後も板条地球温暖化対策委員会（板条製品だけを対象にした実行計画の検討委員会）及びエネルギー・環境対策委員会を開催して、「伸銅業界の低炭素社会実行計画」を継続審議し、今年度末までに策定する予定です。

（以 上）